

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200339		
法人名	有限会社 在宅介護お世話宅配便		
事業所名	グループホーム お茶ばたけ町田		
所在地	唐津市町田1872番地		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年11月22日	外部評価確定日	平成31年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「地べたからの介護」ベッドから布団へ、車椅子・ソファから畳へ。出きられない所をお手伝いさせて頂く。寄り添うケア。 ご自由に動いて頂いて行きたい所は自分で行く。最後まで自分の力で生き抜くことができる。自由をかちとる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街の坂道を登りきった場所にある事業所は、平成24年に開設された。玄関に入ると土間に薪ストーブが炊かれ柔らかい暖で来客者を迎える。リビングや居室はすべて畳敷きで、浴室とトイレ以外には手すりは設置していない。入居者の残存能力を最大限に活かし、生活リハビリを取り入れた「地べたからの介護」を実践している。また「一日に1回は靴を履く機会を」に取り組み、外での体操や公園まで外出ができている。面会は24時間いつでもでき、利用者や家族のそれぞれの思いを尊重し、職員の細やかな配慮や対応がなされ、その人らしい生活を送ることができている。法人全体で劇団をつくり地域との交流も積極的に行われており、地域にとけこんでいる事業所である</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[関わり合って育ち合おう]をスローガンとした会社理念を施設内に掲示し、常に目につくようにしている。また、定期的にスタッフ勉強会を行い、会社理念の輪読を行っている。	理念は会社スローガンを基に、利用者・職員・地域の参加「三方善し」として明確にした理念がリビングに掲示されている。また定期的に行われている勉強会では必ず理念の輪読を行い、常に意識しながら日頃の支援に臨んでいる。管理者は適切な助言と指導を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所へのスーパーで買い物をしたり、清掃活動や地域の行事への参加や施設の行事への参加の呼びかけをしている。	自治会に加入しており区費の支払いも行っている。地区の回覧板を通し清掃作業にも利用者とともに参加している、地域の保育園の園児とともに運動会を行ったり、法人全体で行われるクリスマス会には地域の集会場を借りて毎年行われ、利用者の家族や多数の地域住民も参加されている。また法人で職員の劇団を作り、地域で行われる行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域会議の中で、認知症の病状、支援方法だけでなく、高齢者虐待の実践や感染の予防等、資料を基に説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、事業所から報告事項や地域からの意見について話し合いを行っている。話し合った内容については、施設の勉強会等で、報告し、日常ケアに活かしている。	運営推進会議は、地域の区長、介護相談員、行政職員、施設職員の参加で行われている。管理者から日々の活動報告が行われ、地域の代表者からも行事などの報告がなされ、意見交換も行われている。管理者は、議事録もきちんと整理されている。	運営推進会議の委員の構成で、家族代表が不在となっている。推進会議の趣旨として家族の参加は必要と思われ今後期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者等へ運営や制度に関する疑問点をその都度確認する事で、連携を取っている。	運営推進会議で事業所や利用者の実情を共有し、困ったことや分からないことはその都度確認し相談できる関係はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や社内研修において知識の習得に努め、身体拘束を行わない。また、施設内に身体拘束の指針を掲示し、常に目を通す様にしている。	職員は身体拘束のない支援についての意識が高く、これまでも拘束の事例はない。玄関の施錠はなく利用者は自由に出入りができる。センサーマットの使用もない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修において知識の習得に努め、身体拘束を行わない。また、施設内に身体拘束の指針を掲示し、常に目を通す様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところは成年後見制度を受けている方はおられません。職員は外部研修や社内研修において知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時にお客様並びにご家族へ十分な説明を行い、不安な事や疑問点に答え、理解や納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様との日々の関わりの中で、意見や苦情を徴収できる様に努めている。お客様から出た意見等は職員全員へ伝達・共有し、改善策を講じている。	家族の面会も頻回にあり、職員も気軽に話せる雰囲気と接している。家族から就寝前の更衣時間についての意見があり、その意向に添った例もある。率直な意見や要望を聞き、その後の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気軽に意見や提案をできる様な関係作りを努めている。会議等においては意見や提案を聞く様にしている。また、就業時間以外でも機会を設けて意見を反映させている。	管理者は日常職員と話しやすい環境づくりに配慮している。ケアカンファレンスも含め、月に数回行われている会議や勉強会では、勤務時間の改善など、職員からの意見は理事長にも伝え、改善するとともに職場の環境づくりや運営にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、処遇に反映させる様にしている。また、給料支給時に管理者が給料明細を手渡しをしている。職員の相談や悩みを受ける機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の施設勉強会を設け、職員全員の知識、技量が高まる様な取り組みを行っている。また、幹部研修会、外部研修会も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内の他事業所との交流を持つ事で、職員の研修並びにサービスの向上につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人や家族との面談を数回行い、本人や家族等の想いや要望を把握する様に努めている。また、合わせて当事業所についての説明を行い、安心して利用できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には本人や家族との面談を数回行い、本人や家族等の想いや要望を把握する様に努めている。また、合わせて当事業所についての説明を行い、安心して利用できる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及びご家族と、担当の介護支援専門員等からの情報を基に本人、家族を含めて関係者と話し合い、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会社理念に掲げている「関わり合って育ち合おう」に基づき、相互関係に努めている。日課のラジオ体操や掃除や洗濯物たたみ、料理作り、盛り付け等を一緒に行ったり、活動等の経験談の傾聴により、作業のポイントや処理方法等多くの物を学んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も介護者の一人であるという説明を行い、会社・事業所のイベント・地域行事への参加を促し、職員と共に本人を支援していける様に、協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族へ定期的にお手紙や写真を送付したり、電話等により、連絡をとれる様に努めている。また、ご自宅への外出の付き添いも行っている。	行きつけの美容室の利用、知り合いの面会支援など利用者が大切にしてきた馴染みの支援を途切れないよう行っている。またご家族には、支払い明細書とともに、笑顔ある利用者の写真や職員の手書きで日頃の状況が伝えられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を理解・把握し、一人一人がご家族の一員として、お互いを支え合う関係になれる様に、職員がサポートに入れる様に努めている。職員だけでなく誰かが傍らにいてくれる安心感が生まれる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を必要とするしないに関わらず、在宅支援センターや他のサービス事業者との連携により随時連絡、相談が受けられる様に努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人の思いや言葉を傾聴し、関わり合う事で把握・実現できる様に努めている。ご家族からも以前の生活状況等の情報収集を行い支援につなげている。	利用者のそばにさりげなく寄り添い表情を見ながら、意向や心情の把握に努めている。入浴時のゆっくりとした時間や何気ない会話の中で、意向を把握することも多い。その情報は全職員で共有し利用者の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族との面談を行い、関係者からの情報と併せてお客様についての把握を行う。入所後においても、本人やご家族との関わり、日頃のケアの中から随時情報を取り入れる様に努める。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から関わりを密に行い、何気ない仕草や言動からも状態が把握できる様に努めている。気付く事を心掛け、日々の記録を基に、モニタリングやカンファレンスを行い、必要に応じ介護計画の追加・変更を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時は、本人・ご家族よりご意見を伺い反映させる様にしている。また、職員全員で計画・モニタリングについて話し合い、作成しています。	利用者及び家族の生活の意向に沿った計画が立てられている。毎月の会議の中でモニタリングが行われ、計画の評価も行われている。計画の見直しも随時行われ、作成された計画は職員が毎日確認し実践できるよう記録の様式等も工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様ごとに個人記録を作成し、日々の生活状況や状態の変化を記録している。職員間での情報共有を図り介護計画作成・見直しの際の情報として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望により、買い物や外出支援も行っている。また、手話を交えたり合唱団を作り発表する機会を設けている。喜びと楽しみを感じられる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りへの参加。レクリエーション団体のボランティア、地域の保育園園児の活動を取り入れ、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診や定期受診により、体調管理を行っている。緊急時は直ぐに連絡して適切な指示を受けたり、病院にお連れしている。	本人や家族が希望する医療機関での受診で、病院受診の際は職員が付き添い支援している。協力医療機関より月2回の訪問診療をお願いしており、夜間対応もできる。受診結果は家族に確実に伝え、情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	会社内の看護師や受診に関わらず、随時主治医または看護師への相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医との相談により状態把握に努める。事業所での生活状況や環境整備、医療連携体制を相談した上で、早期退院を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時、書面により説明を行い、体調の変化に応じて適宜、ご家族やかかりつけの医師との話し合いを行っている。職員全体で勉強会の開催時に意見を出し合い共通理解を行っている。	指針を基に入居時に家族と利用者に説明し同意を得ている。その段階ごとに、職員、医師、家族との話し合いを重ね、対応方針を共有している。看取り介護もこれまで何回も経験があり、家族の泊まり込みも可能で、食事も提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中に「緊急時対応」を取り入れ、訓練を行っている。マニュアル、緊急連絡網を活用できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難・消防・通報訓練・避難経路の指示、消防設備の定期点検を行っている。訓練時には、消防署の立ち合いで助言を頂いている。今年度の一回目は、6月26日に実施しました。近隣には特に夜間火災時の協力をお願いしています。	消防計画に基づいて、消防署の指導と近隣の住民の協力を得て夜間を想定した避難訓練を年2回行っている。また勉強会の後、夜間の訓練も行い避難の仕方や設備の確認が行われている。職員は火災報知器、消火器などの緊急時の対応は熟知している。非常用の備蓄も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、お客様への言葉遣いや個人情報の取り扱いには十分に配慮している。また、個人情報保護については、書面による説明、同意を得ている。	「利用者本位」のケアを基に利用者の人格を尊重し、一人ひとりに合わせた優しい言葉かけで、気持ちに添った支援を行っている。個人情報の取扱いについては、運営規程や重要事項説明書に守秘義務として謳われており、きちんと守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の自己決定を尊重し、実践できる様に関わりを密し、職員による説明や必要な支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	馴染みの生活継続できる様に、一人一人のペースに合った時間が流れる様に配慮しており、随時お客様の希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日一回は、必ず鏡をみて頂く様にしている。お客様が主体となり時候に合った衣服等の身だしなみを行う事ができる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好きな物を会話の中から伺ったり、季節にとれる旬の物を伺ったりし、献立に取り入れている。食材の買い物、調理、配膳、後片付けを職員とお客様が一緒に行なっている。職員も一緒に食事をしながら見守りを行う。	その日の担当職員が献立を考え、足りない食材があれば利用者と一緒に買い物に行き、調理を行っている。職員も利用者の中に入り、それとなく見守りながら同じ食事をいただいている。食事介助が必要な利用者には声をかけながら支援している。利用者の誕生日にはその方の希望に応じ、お刺身なども提供している。誕生日ケーキも利用者とともにデコレーションしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様の体調に合わせて、食事量や水分量の把握・調整を行っている。職員も同じ食卓と一緒に食事をしながら見守りを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人適した口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を心がけている。排泄記録表の作成や本人の排泄のサインの把握により、自立排泄の支援やおむつ外しを行う。時間を決めパット交換、トイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、その方に合わせたトイレでの排泄支援を行っている。布パンツに変わったり、大きいパットから小さいパットに変わった利用者もいる。夜間もトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての理解は、施設勉強会でできている。食事並びに水分の摂取量の把握に努め、日常生活の中で、適度の運動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴して頂いている。お客様の生活習慣や希望に添える様に対応している。寒い時期は、浴室の暖房も利用している。足浴も行っている。	毎日の入浴を基本としている。一人ひとりのプライバシーを尊重し、更衣もふくめ個浴でゆっくり入浴されている。現在入浴を楽しみにしている利用者も多く入浴の拒否はないが、体調に合わせ、入浴ができない時は清拭などで対応している。浴室の空調管理もできている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課にとらわれる事なく、起床時間や就寝時間、昼寝等できる限り本人のペースに合わせたお客様本位の生活を送れる様にしている。夜の安眠の為に、毎日天気の良い日は、外でのラジオ体操や散歩を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を資料化する事で、随時閲覧把握をする様にしている。また、服薬の確認、症状の変化の確認、効能の確認を随時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の生活習慣や馴染みの事を取り入れ、本人の能力に合わせた支援を行っている。また、季節ごとの行事や外出で楽しく気分転換ができる様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて、散歩や戸外活動を心掛けている。買い物などお客様の希望に合わせて、出来る限り自由に外出ができる様にしている。車でのお出掛けも実施している。	天気がいい日は毎日靴を履いて外に出る習慣を大事にされ、近くの公園で体操を行っている。季節に合わせたドライブも行っているが、「唐津くんち」は地域の入居者にとって念願でもあり、毎年欠かせない外出支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に本人の能力に合わせて管理を行っている。必要な時には随時使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望に随時対応している。年賀状はできる限り本人に書いて頂く様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームは、常に天窓からの自然光が差し込み、寒い時期には土間に集まりストーブで暖をとりながら、会話を楽しめる様になっている。リビングルームは、掘ごたつとなっており、畳に座って落ち着ける様になっている。	玄関から入ると、土間には薪ストーブが炊かれており、焼き芋もできる。リビング全体が畳敷きであり、利用者は掘ごたつに座り職員と会話を楽しんでいる。壁には季節の飾りつけや行事の写真等が飾られている。浴室、トイレや洗面所など掃除も行き届き清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様の体調に合わせ、土間のベンチや畳にて個々がのんびりと寛ぐ事ができる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には、使い慣れた家具を持ち込んだり、思い出の品を飾る事にしている。好みの空間を作れる様にしている。	持ち込みに制限はない。利用者は自宅で使い慣れた家具や好みの物を持ち込み、安心して居心地よく過ごせるよう支援されている。どの部屋も畳敷きでベッドは設置せずに布団を持ち込まれている。屋間は布団も押し入れに保管され、すっきりと整理されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は必要のない段差を解消し、死角をできる限り減らし、安心して能力を発揮できる様に配慮している。居室前にはお客様本人の写真を間違えない様に工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない